

2023年度 学校法人修道学園 事業計画
 〈広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校〉

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I 協創教育の推進			
1. 教育目標達成の取り組み	①スクールポリシーを公表し、本校の目指す学校像を内外に発信する。 ②本校で行うすべての教育活動を「協創教育」と位置付け、教育目標「グローバル・イノベーション・リーダーの育成」の達成を目指す。 ③教科「探究」を協創教育の基軸とし、各教科学習、G C P（グローバル・コンピテンス・プログラム）、国際理解教育、広島修道大学との連携などの取り組みを通して教育目標の達成に取り組む。	管理職、教務部 全教職員 教務部 協創教育部	通年 通年 通年
2. 「4つの力」(課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	①「4つの力の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について検討し、評価を試みる。また、「教科別ルーブリック」もブラッシュアップし、協創ルーブリックとの整合を図る。	教務部	通年
3. 「G C P」(グローバル・コンピテンス・プログラム)の導入・促進	①本校教育目標を達成するための教科横断型で特色ある授業のG C Pを探究授業の中で取り組む。	協創教育部	通年
4. 国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ（グローバル基礎力）を育成する。 ②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	協創教育部 協創教育部	通年 通年
5. I C Tを活用した教育の推進	①I C Tを活用した授業づくりや協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	協創教育部	通年
II 学力の向上			
1. 学力向上の取り組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。 ②授業を大切にするため、切り替えが素早くできる授業規律を徹底する。 ③一日の学びのスタートは朝読書にあると位置づけると共に、次年度に向けてそのあり方を検討する。 ④授業改善に向けた分析を行うため、生徒を対象としたアンケート調査を行う。	教務部 教務部、学年会 協創教育部 学年会 教務部	通年 通年 通年 通年
2. 「探究力」を目指す授業づくりの促進	①「エミット学習」(描く・観る・問う)やI C Tを活用した授業づくりを教員間で共有し、授業で取り入れる。	教務部	通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
Ⅲ進路支援の強化 1. 組織的な進路支援の 取組み	②参加型授業や探究的な学びを促進する授業の研究・実践を行う。	教務部	通年
	③新たな「探究」授業の深化を図り、その充実に取り組む。	教務部	通年
	①「進路シラバス」に基づいた取り組みを充実させていく。	進路支援部	通年
	②広島修道大学附属校推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜などの対策案を企画・立案し、実施する。	進路支援部	通年
	③「協創スマート予備校」など、効果的な補習体制のもと、進路希望に応じた補習を実施する。	進路支援部	通年
Ⅳ自立(自律)心の育成 1. 規範意識や倫理観の 育成	④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。	進路支援部	通年
	⑤広島修道大学附属校推薦制度の基準の見直しについて検討する。	進路支援部	通年
	①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・挨拶・時間)を合言葉にし、徹底を促す。	生徒支援部	通年
	②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」(高みを目指す)につながる取り組みを実施する。	生徒支援部	通年
	③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。	生徒支援部	通年
2. 学校生活の活性化	①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営することで、文化祭、体育祭、協創コンテストなどの行事の内容の充実を図る。	生徒支援部	通年
	②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	生徒支援部	通年
	③限られた校内環境の中で、生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう取り組む。	生徒支援部	通年
V教育力の向上 1. 教員研修の体系化及び 実施	①初任者のための「メンター制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導や助言を行う。	教務部	通年
	②毎月1回水曜日の放課後を研修日とする。当日は短縮授業とし、研修年間計画に基づいて実施する。マネジメント、授業力向上等、多様な研修を実施する。	教務部	通年
2. 公開研究授業の実施	①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する	教務部	11月

主要項目	具体策	所管部局	実施月
3. 授業評価の実施	①日々の授業について、外部評価者や生徒による評価を行い、得られた評価と助言に基づき授業力の向上を図る。	教務部	通年
4. 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。	教務部	通年
	②「学校評価アンケート」（生徒、保護者、教職員）を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。	教務部	7月、2月
5. 指導と評価の一体化の取り組み	①新学習指導要領の導入に伴って、学習指導と学習評価の一体化に取り組む。	教務部	通年
VI生徒募集の充実			
1. 戦略的広報活動の実施	①オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。	企画広報部	6月～11月
	②ウェブ（ホーム）ページ及びSNSでの発信をこれまで以上に充実させる。	企画広報部	通年
	③小・中学校や塾訪問の事前準備を入念にすると共に、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	企画広報部	5月～11月
VII学校組織力の強化			
1. 組織体制の充実	①中期事業計画に基づいた年度事業計画を踏まえて、各部が主体的に考え、行動できる体制を構築する。また、その振り返りを全教員で共有する。	各部	通年
	②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成し、実施する。	管理職、教務部	通年
	③研修主任及び中高一貫教育担当を中心に、教職員研修及び中高一貫教育体制の充実を図る。	教務部	通年
2. 人事評価の実施	①適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として策定した「キャリア・アップ・システム」（人事評価制度）を活用し、教職員の成長を支援する。	管理職	通年
VIII事務室の機能強化			
	①「キャリア・アップ・システム」（人事評価制度）を活用し、事務室の企画、財務面の機能強化を図る。	事務室	通年
	②教職協働の考え方にに基づき、事務職として学校経営に積極的に参画する意識の醸成を図る。	事務室	通年
	③施設・設備中長期保全計画に基づき、計画	事務室	通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
	的な施設・設備の維持管理に努める。 ④教職員の勤務管理を適切に行うと共に、 健康の保持増進に努める	事務室	通年